



高齢者住宅を中心にした 多世代が交流する街づくりをめざす

株式会社学研ココファンは、教育・出版の学研グループのなかで高齢者福祉・子育て支援事業を展開している。今年で設立から10周年を迎え、現在、首都圏を中心に高齢者住宅を72棟・3176室展開している。2011(平成23)年の「高齢者住まい法」の改正で創設されたサービス付き高齢者向け住宅の拡充はめざましく、今年5月末時点ですでに15万戸に迫る勢いである。いわゆる2025(平成37)年、2030(平成42)年問題に向けて、高齢者住宅の供給数は依然として不足しているが、一方の足元では事業者間の競争も激化している。

当社は高齢者住宅のあるべき姿について、それが数十人の高齢者が集団で暮らす、高齢者のみで形成されたコミュニティであるとは考えておらず、高齢者住宅が中心となって新しい街づくりができないかということをつねに念頭に入れた開発を行っている。

そこで当社の高齢者住宅では「多世代交流」を推進している。多世代交流にはさまざまなかたちがあるが、その多くのケースは、近隣の幼稚園・保育所・小学校・中学校などと定期的、かつ、継続的な交流を積極的にもつことがメインである。核家族化が進行し、高齢者と子どもたちの接する機会がほとんど無くなってきているため、交流の開始直後はお互いにぎこちなさがあるが、継続的な交流とともに心が通じ合い、手紙のやり取りや年度のお別れ会などでは、涙を流し感動しておられる光景を目にする。長年の継続の結果、サ付き住宅に入居する高齢者が、歌や音楽、共同作業のアクティビティ、そして学校給食の場に招かれるなど、さまざまな交流プログラムを開発している。当社も参画した共同研究(東北大学、仙台市)では、高齢者と子どもたちの継続した触れ合いは、高齢者にとっては脳活性化効果(認知症予防)が、子どもにとっては情緒の安定などに効果があるというエビデンスが出ている。

当社グループでは、高齢者福祉事業と合わせて子育て支援事業も展開しており、サ付き住宅に保育所、学童保育、学習塾等を併設し、学研グループとして一体的な開発モデルを積極的に企画・展開している。今年

5月にオープンした地域包括ケア複合拠点である「ココファン柏豊四季台」は、地域包括ケアのモデル拠点のみならず、今後は多世代交流のモデル拠点になると考えている。

千葉県柏市の豊四季台団地は1964年(昭和39年)に完成した団地であり、現在、その高齢化率は40%を超え、長年かけて団地再生が検討されていた地域であった。この豊四季台団地にサ付き住宅の105戸を中心として、各種介護・医療・生活支援サービスを併設し、さらに保育所、学童保育、交流スペースを設けている。

また来年4月に神奈川県横浜市鶴見区の市有地に「よこはま多世代・地域交流型住宅」としてココファン鶴見をオープンする予定だ。70戸のサ付き住宅と子育て世代の賃貸住宅を共存させ、介護・医療サービスに加え学童保育、学習塾、コンビニ等を併設する。近隣には小学校と保育所も立地、拠点内には地域に開かれた交流スペースが用意され、現在、社内および地域、行政等関係者で地域交流のあり方について活発に意見交換をしている。ADLが低下した高齢者への介護・医療のサービス提供はもちろんだが、元気な方にはまだまだ拠点内、地域において活躍の場をもっていただきたいと考えている。

私たち学研ココファングループは、高齢者住宅経営者連絡協議会の活動も通じ、深刻な少子高齢化のなかで、高齢者住宅を核にした「街づくり」「地域の再生」に今後も貢献していく方針だ。

五郎丸 徹

ごろうまる・とおる

●PROFILE

株式会社学研メディカル秀潤社取締役などを経て、平成25年から株式会社学研ココファンホールディングス取締役・株式会社学研ココファン常務取締役に就任。

